

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学 校 教 育 目 標	こころ豊かに たくましく生きる 子どもの育成
-------------	------------------------

目 指 す 子 ども の 姿「ひとりで」「みんなで」できる子、「たくましく」育つ子の育成
変 容 を 目 指 す 資 質 ・ 能 力
a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力 c 学びに向かう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三 田 市 立 あ か し あ 台 小 学 校
学 校 長 田 中 裕 貴
研究主体【 校内学力向上委員会を設置 】

前年度			継続性	4月			2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた 重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員 点検	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
基礎・基本の定着を図り、 学びに向かう力を高める。	○国語の「知識・技能」に関する項目の平均正答率が全国平均を上回り、目標を達成している。漢字の定着を図るため、ドリルパークの活用とあわせてノートでの漢字練習や文章中で漢字の使用ができるよう継続指導している成果が表れている。 ●算数の「知識・技能」に関する項目の平均回答率が目標値には達していないが、全国平均を上回っている。ドリルパークや計算ドリルを使い、繰り返し練習を継続して行うことで、基礎的な力を向上を目指し続けている。 ●算数において基礎知識・技能を活用した問題(コンパスを用いた作図、面積を求める、数直線上の値、少数と分数、等)に課題が見られたことから、学年に応じて具体物、半具体物を用い操作しながら考えたり、自分の考えを操作しながら言葉で説明させたりする活動を取り入れていく。 ○学校評価児童アンケート「学校の勉強はよくわかる」の肯定的評価は93.2%であり目標を達成している。教科指導や学級経営についてのミニ研修会や学年打ち合わせを通して、授業研究をしっかりと行なう。 ●学校評価児童アンケートの「読書が好き」の項目では、肯定的評価が90.8%であった。「読書好き」な子どもを育てるための取組を学年の発達段階に応じて担任が意識して学校生活や授業の中で実施していく。	B	→	基礎・基本の定着を図り、 学びに向かう力を高める。 (a,b,c,e,f)	・算数・国語の「知識・技能」に関する項目の平均正答率が80%以上 ・「学校の勉強はよくわかる」(学校評価アンケート)の肯定的評価80%以上 ・「読書が好き」(学校評価アンケート)において肯定的評価80%以上	・「あかしあタイム」を用いて、主に漢字や言葉の基礎・基本の定着を図る。 ・ドリルパークや計算ドリルを使い、繰り返し練習を継続して行うことで、基礎的な力の向上を目指す。 ・漢字離れを防ぐため、ノートでの漢字練習や文章中での漢字の使用ができるよう継続して指導する。 ・算数の授業では、学年に応じて具体物、半具体物を用い操作しながら考えたり、自分の考えを操作しながら言葉で説明させたりする活動を取り入れる。 ・職員自主研修会(サロン)等により、教員の授業力向上をはかる。 ・学年の発達段階に応じ、読み聞かせ、多読、ビブリオバトル、おすすめの本紹介など読書好きの児童を育てるためにの実践や指導を行う。 ・授業での、図書室の活用を行っていくとともに、委員会、学校司書や図書館ボランティアの方とも連携し進めていく。			
課題解決に必要な、複数の 情報をもとに、比較したり、 引用したりしながら、 自分の考えを述べる力を 育成する。	○国語「情報の扱い方」における平均正答率は全国平均を上回り、目標を達成できた。を教科においてICTを効果的に活用し、情報の整理や思考の可視化、操作化を学習の中で位置付けることで、思考力と表現力の向上に寄与した。 ●書くことに関しては、平均正答率は全国平均を上回っており、目標値には達していない。書きたいこと、メモ、新聞づくり、ノートの振り返りなど、自分の考えを言語化する取組の中で、目的や意図に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫を意図し、取り入れていく。 ○学校評価アンケート(児童)「自分の考えや思いを伝えたい」における肯定的評価は90.2%で目標値を達成できた。まず一人考えたことを書き、それを使いながらペアで伝え、全体の場で共有するといった「個々に応じた伝ええる場」を設けることを学校全体で取り組むことができた。意見交流の場で、ミラシンドオンラインクラスを効果的に活用することができた。 ○ベアトークをスムーズに行うための「会話の達人カード」を作り、学校全体で取り組むことができた。	A		課題解決に必要な、複数の 情報をもとに、比較したり、 引用したりしながら、 自分の考えを述べる力を育 成する。(b,c,d,e,g)	・国語「情報の扱い方」「自分の考えが伝わるように書くこと」等資料をもとにして条件を満たしながら書くことに関する事項で、平均正答率が全国平均以上 ・算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均以上 ・「授業中、自分の考えや思いを伝えている」(学校評価アンケート)において肯定的評価80%以上	・どの教科においても、児童が、自分の考えの根拠を文章や図から探し、理由をいいながら発表したり、書いたりできるように指導する。 ・目的や意図に応じて、自分の考えを相手にわかりやすく伝える書き方、発達段階に応じた文章を要約する力の向上をめざし指導する。 ・モデルとなる文章を効果的に提示し、思考・表現する活動を苦手とする児童の支援をする。 ・国語教材の中で複数の資料を活用することを目的とした教材を重点教材とし、指導を意図する。 ・一斉の場だけでなく、ベアトーク、グルーブトーク、タブレットを用いてなど、自分の考えや思いを共有できるような学習形態を仕組んでいく。 ・意見や考えの交流後、考えの比較、発見、変容などについて、ふりかえりで書けるよう指導していく。			
「個別最適な学びの充実」と「協働的な学びの充実」 に向け授業改善を図る。	○学校評価アンケート(児童)「学習のめあてにむかって取り組んでいる」の肯定的評価の結果は、94.3%であり、目標を達成している。どの学年のどの授業においても、めあてとふりかえりが一体化した授業が行なわれた。 ○学校評価アンケート(職員)「ICT機器を効果的に活用する実践を行っている」に関する肯定的評価の結果は、93.1%であり目標値を達成している。タブレット操作・活用に関する各学年のカリキュラム(中学校区)を共有し、今後も取り組んでいく。ICT機器の効果的な活用方法を職員間で共有していく。ミラシンドやkeynoteなどタブレットを効果的に活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化を行うことができた。 ○学校評価アンケート(職員)「個別の指導計画にすること」において肯定的評価の結果は93.1%であった。来年度、専門的な知識を持つ講師を招き、個別の支援を必要とする児童の指導の方向性について学ぶ研修の機会を持つていく。	A		「個別最適な学びの充実」と「協働的な学びの充実」 に向け授業改善を図る。 (b,d,e,g)	・「学習のめあてに向かってすすんで取り組んでいる」(学校評価アンケート)肯定的評価80%以上 ・iPadを用いた学習についての質問紙(個別学習・協働的な学習に関する質問)の肯定的評価85%以上	・ミラシンドやkeynoteなどタブレットを効果的に活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。 ・児童の発達段階に応じた、情報モラルを学ぶカリキュラムを作成する。 ・タブレット操作に関する中学校区で作成したカリキュラムを活用する。 ・個別の指導計画等を用い、より細やかな個に応じた支援を行う。			
本校研究「人権教育・道徳教育の充実」をもとに 「豊かな心」の育成	○「やさしいことばを使って周りの人と仲良くしている」(学校評価アンケート)における児童の肯定的評価は95.6%で目標を達成している。本年度の研究を「道徳・人権教育」に設定し、生徒指導の視点だけではなく、名前の呼び方、言葉遣いについて学校全体で取り組む成果である。 ○「あかしあ台小学校の4つルールをまもっている」(学校評価アンケート)における児童の肯定的評価は92.2%であり、目標を達成している。今後も教師の温度感なく、指導を継続させていく。 ○「自分には、良いところがあると思う」(学校評価アンケート)における児童の肯定的評価は93.2%であり、目標を達成している。否定的評価をしている児童の自身感情も向上させたい。教師が意識して、結果だけでなく、努力や過程、目に見えない価値を言葉にして褒めたり認めたりすることで価値づけし、互いを尊重できる風土を学級や学校の中で培っていくことで、自尊感情を育んでいきたい。 ○「地域の人や友だち、先生に進んであいさつをしている」(学校評価アンケート)における児童の肯定的評価は93.0%で目標を達成している。保護者アンケートの児童の肯定的評価は87.6%であり、児童の意識との間に少しギャップがある。校内での取り組みと共に、地域の中や、登校時の挨拶も積極的にできるよう取り組んでいきたい。	A		本校研究「人権教育・道徳教育の充実」をもとに「豊かな心」の育成をする。 (c,f,g)	・「やさしいことばを使って周りの人と仲良くしている」(学校評価アンケート)において肯定的評価90%以上 ・「あかしあ台小学校の4つルールをまもっている」(学校評価アンケート)において肯定的評価90%以上 ・「自分には、良いところがあると思う」(学校評価アンケート)において肯定的評価95%以上 ・「地域の人や友だち、先生に進んであいさつをしている」(学校評価アンケート)において肯定的評価80%以上	・児童の道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えが深まる授業、自尊感情を高める取り組みを実施し、その取り組みを職員で共有する。 ・担任だけでなく職員全体で、個々の児童のよいところやがんばっている過程を見つて、言葉にしてその都度言葉にして伝える。 ・全職員で、その場に適した言葉遣いで、好ましい人間関係を築き、豊かな集団生活ができるよう指導する。 ・職員から進んで積極的にあいさつをしたり、あいさつの大切さについて伝える。 ・学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う。 ・「感謝のつどい」でお世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを伝えることで、地域の方々に支えられていることを気づかせる。			
家庭・地域との連携を図り、 基本的な生活習慣と家庭学習の 充実に努める。	○学校運営協議会、ボランティア交流会を年間を通し複数回持つことができ、地域と学校の情報交流、情報共有を図れた。 ○「地域の人や友だち、先生に進んであいさつをしている」(学校評価アンケート)児童の肯定的評価は93.0%である。保護者の肯定的評価は97.6%はやや差が見られる。地域の方、見守り隊の方にもあいさつができるようあいさつの大切さについて指導を継続していく。 ○「宿題を必ずして提出している」(学校評価アンケート)児童の肯定的評価は93.6%で目標を達成している。保護者96.1%で家庭でのサポートがうかがえる。一方で、「家庭学習」に関する結果は、児童83.7%、保護者66.6%であることから、宿題のみを行っている児童が多いことがうかがえる。今後は、宿題以外の家庭学習の仕方を学年の発達段階に応じて指導していく。 ○今年度も「感謝のつどい」を持つ事で、児童が感謝の気持ちを伝えることを通して、改めて地域に支えられていることを実感できた。	A		家庭における基本的な生活習慣と学習習慣の充実に努める。(c,f)	・「宿題を必ずして提出している」(学校評価アンケート)肯定的評価90%以上 ・「宿題以外にも家庭で計画的に学習を進めている」(学校評価アンケート)肯定的評価が80%以上 ・質問紙「学校の授業以外の学習時間」で、一日当たり2時間以上という回答が全国平均以上 ・「家庭での基本的な生活習慣」についての質問紙の回答が、全国平均+5ポイント以上	・家庭との連携を取りながら基本的な生活習慣、学習習慣を身につけさせる。 ・ミラシンドを活用した家庭学習に取り組む。 ・発達段階に応じた「家庭での学習の仕方」について指導する。			
生徒指導及び学力向上 に向けた小中一貫・学校園所の 連携を推進する。	○SCの職員研修会を年2回持つことができた。専門的な知識を学びながら「不登校の初期対応について」や、「不登校の現状」について実践的なグループワークを行うことで対応について学び、理解を深めた。支援が必要な児童について担任一人で抱え込むことなくチームとして対応できている。 ○学校評価アンケート(職員)の「保幼少連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目で肯定的評価の値が96%であり、目標を達成している。中学校区小中一貫教育推進委員会として、生徒指導部会、教育課程部会、研究推進部会等を開催することで、各校の協力を共有することができた。その部会で共有したことを今後校内で情報共有を進めていきたい。 ○必要に応じてケース会議を持つ事ができた。ケース会議の内容を職員で共有し、組織的に課題解決に向けて取り組める。 ○ゆりのき中学校からの出陣隊(外国語)を行うことで、スムーズに中学の学習へ移行できるよう児童に安心感を持たせることができた。	A		生徒指導及び学力向上 に向けた小中一貫・学校園所の 連携を推進する。(c,f)	・学校評価アンケート(職員)の「保幼少中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目で90%以上の肯定的評価をめざす。 ・必要に応じてケース会議を開き共通理解をし、組織的に課題解決に向かって検討する。 ・中学校校区連絡会を持つ。	・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを活用し、教育相談や保護者向け研修会を実施する。 ・「さんだっ子かがやきカリキュラム」を活かし、小中一貫・学校園所連絡会を開催する。 ・中学校区で学力向上改善プランを交流し、課題の共有化を図る。 ・ゆり中学校の「トライやる」の受け入れを継続する。 ・教育的課題の早期発見のために、毎月生活アンケートもしくはいじめアンケートを行う。			

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず